

第3回福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会 議事録

1 日 時 平成30年8月23日(木) 13:30~15:15

2 場 所 福島市役所4階庁議室

3 出席者 佐藤 滋 委員長、奥本 英樹 副委員長、菅野 廣男 委員、後藤 忠久 委員、齋藤 美佐 委員、霞 朝子 委員、原 馨 委員、三瓶 章 委員、門田 敦嗣 委員、池澤 龍三 委員、紺野 喜代志 委員

4 内 容

(1) 開会

(2) 議事

① これまでの検討委員会の振り返り等について

② 再編整備の基本的な方向性について

(3) その他

(4) 閉会

5 概 要 議事内容について事務局説明後、質疑応答、意見交換

6 委員の主な発言

○委員長 事務局の説明は、それぞれの施設について、今までの検討委員会で議論してきたことを整理し、その結果を事務局としても検証したところ、考え方として大きな齟齬はなかったということかと思う。特に公会堂と市民会館については、集約・複合化により駅前エリアに配置すること。図書館については、基本的な考え方を整理しないと結論が出せないこと。それから中央学習センターについては、市役所新庁舎西棟と市民会館機能の一部も併せて複合化ということが、検討委員会としての大方の方向性ということである。このまとめについて、立地場所も含めてご意見をいただければと思う。

○委員 第2回検討委員会において、ファクトやデータに基づいた検討や議論を行いたいということで、事務局から様々なデータを示していただき、先ほどの検討委員会の方向性や考え方が示されたところであるが、集約・再編した結果何がどう変わるのかというシミュレーションがあまり示されていない。現状とコスト面の分析はされているが、再編によって人の流れがどう変わるのか、また収益面のシミュレーションはどうなのか。ランニングコストの話が出ているが、ランニングコストの回収をするのは当たり前であり、民間プロジェクトであったらランニングコストを上回る収益があり、その結果イニシャルコストを回収できないと価値を生んだとは言えない。このような再編をした結果、どうやってコストを削減して、キャッシュのプラスを生むのか。コストを上回る収益を生む可能性があるのか、そのための定性要因として人の流れがどう変わるのか。そういっ

たシミュレーションをぜひ行ってほしい。

もしかすると、この検討委員会で方向性を決めて、その後で具体的な内容を検討するというかもしれないが、それは逆である。このような再編を行うと、このような形になる可能性があるという考えが示され、それは実現可能なのか、基本コンセプトに合っているのかという検討がなされる。その点をどう考えるのか示していただきたい。

○事務局 とても重要な視点のご意見であるが、現時点では、まだ具体的なシミュレーションは行っていない。公共事業という性質から、イニシャルコストを回収することは難しい面もあるかと思われるが、そのような視点を持って考えることは大事であると考えている。

○委員 イニシャルコストの回収という概念がないので、ランニングコストの回収や減価償却をしているとしても、その施設が老朽化したときに、さらなるコストがかかるということが往々にして起こる。いかにイニシャルコストを回収するのか、将来の福島市民の負担になるので、そこまでのシミュレーションが必要だと思う。

○委員 本検討委員会の目玉として、福島駅東口の再開発事業が大きな課題となっているのだと思う。公会堂が休館となっている現状を踏まえ、再開発事業が予定される状況の中で、回遊性や、人をどのように呼び込むのか。福島市には板倉藩があったが、街の形成としては山形市や弘前市のような城下町ではない。やはり駅前を中心として、人を呼び込むような施設の集約が今後の将来に向かって大切なのではないか。そうであるならば、コンベンション施設をどのような形で再編するのか、公会堂を含めた複合施設をどのようにつくるのかについても、最終的には民間との協力体制ができて、それらの面積の確保、意見交換ができるのかどうか非常に重要になってくる。これからの議論ではあるが、相手を待たせるわけにもいかないなので、コンベンション施設については早急に結論が出されるべきだと思う。

もう一つは、市役所新庁舎西棟についてである。前回は述べているが、実施設計ができて7年が過ぎている。生活の三原則である「水・空気・太陽」。今、西日本で多くの災害が起きている。西棟については、市民の避難場所としての機能も含め、先送りするのではなく、老朽化している中央学習センターや図書館、市民会館等との再編も含め、早急に建設すべきだと思う。東日本大震災のときに旧庁舎であったらどうなっていたか。また、摺上川ダムでなかったら、市民生活はどうなっていたか。

市長においては、この二つの問題については早く結論を出して、前に進むべきだと思う。これらのことを考えると、検討委員会の方向性としては固まってきたのかなと思うが、図書館については、人を呼び込むという面では駅前も良いかと思ったが、子どもたちの未来や多くの蔵書のことを考えると、単独設置も良いのかなとも思うところである。

○委員 検討委員会における議論の整理として、公会堂と市民会館についてはコンベンション施設へ再編するということだが、コンベンション施設の位置づけと、公会堂や市民会館

の公共施設としての位置づけについては、議論する必要がある。単に大きさの問題だけでなく、内容や運営面でも問題が出てくると感じている。可変型の施設機能を検討しているが、コンベンションとして利用する場合と、芸術文化として利用する場合と、細かい部分で検討が必要となる。そこはどうやって議論を重ねていくのかが重要であると感じている。

○委員長 福島市には県のホールもある。私の疑問としては、その役割分担についてはどのように考えるのか。県の施設も老朽化しているかもしれながい、フルスペックのホールが複数必要なのか。

○委員 この検討委員会の議論としては、同じ規模のものをつくっても仕方ないという話でスタートしたはずである。福島市にはたくさんのコンベンション施設があるが、それらと同じものは作らずに、それぞれのニーズに合ったものを作るということを議論しているのだと思う。駅前の賑わい創出は必要だと思うが、問題はこれだけの規模の施設が駅前エリアに入るのだろうかということと、採算性である。コンベンション施設にどれだけソフトが伴うか。例えばコンベンションビューローのような運営を充実させないと、運営が成り立たなければ赤字の施設をつくってしまうことになる。適地であると同時に、運営やソフトも併せて考える必要がある。委員長のお話のように、県文化センターなど他施設があることも加味して検討を重ねるべきである。

○委員長 市民から寄せられたご意見には、将来の財政負担を心配するものもあり、公共施設がダブっている中で、欲しいものや必要なものについての議論もあるが、冷静になって将来の経営のことを考えていくことも重要であると思う。

○委員 今回の検討委員会の議論の整理として、福島駅新東西自由通路が中長期的課題ということであるが、前回六魂祭を実施した際に、地下の東西自由通路は人が多すぎるため危険だということで使えなかった。しかし、あの通路は緊急事態の際には通らなければならない通路である。このような状況で緊急でないと言えるのだろうか。また、東西が繋がることで、東口の経済効果が西口に波及すると考えられる。その点も踏まえ、東西自由通路については考えていただきたい。

○委員 箱物がイコール サービスであるという感覚を打破しなければならない。検討のスタート時点から公会堂や市民会館などの名称が出てきているが、それら施設の再編を切ったり貼ったりどうしようという話になってしまう。

まず、どういうサービスを提供するのかという話が肝心だと思う。また、駅前のカギは、民間事業者との連携になると思うが、行政だけが都合よく得をするような事業スキームを望んでいるとすれば、それは難しい。行政として何を負担するのかをしっかりと示さなければならない。どんな施設をつくっても老朽化していくし、設備が陳腐化していくことは避けられない。施設管理は行政の得意分野ではないので、効率的な維持管理

は役割分担の中で民間にお願いし、行政でしかできないサービスはどの程度費用負担するのかを示すべき。

自治体はよく稼働率データを示すが、稼働率は回数や人数など様々な見方ができ、曖昧な側面がある。それよりも、ホールで講演会を何回開催する、学会を何回開催する、その内収入が得られる内容のものは何回あるなど、今まではこうだったが、これからはこうしたいというビジョンを示されていないので、どうやってコストを回収するのかという話になる。回収できないならば、子どもたちの将来にどのような負担を求めるのか、大人である我々は議論しなければならないのだと思う。

結局のところ、福島市ではこれまでどのようなサービスが提供されていて、今後はどのような形を求めていきたいのかをオーソライズしないと、この議論はいつまでも進まない。もし、残り一回の検討委員会でそこまでできないのであれば、ここまでは決めておきたいという水準を定めないと、同じ議論を繰り返すことになってしまう。稼働率だけでなく、どのようなサービスを提供するのか、過去の事例を含めてもう少し示してもらえれば、委員の皆さんからも色々なノウハウが提供されるのではないかと。

○委員長 コンベンション機能について、駅前再開発の場所において、どのような可能性があるかと事務局として考えているか。

○事務局 新たにコンベンション施設を整備した際に、どの程度の開催件数が見込まれるかの試算はまだ行っていないが、過去5年間における福島市観光コンベンション協会が開催支援した実績によると、年間約40件の開催により、約2万5千人の参加がある。しかし、市観光コンベンション協会が開催支援していない、単独での開催による件数も別途あるものと考えられる。

また、平成27年度に市内の大学にコンベンション開催意向調査を実施した際には、市内のコンベンション施設が不十分であるために開催が見送られた件数が16件あり、うち一千人以上の規模が5件あった。

今回、公会堂や市民会館機能の再編によりコンベンション施設を整備するとなれば、それらの機能の利用も見込まれるものと考えている。

○委員 今回の話は二つの視点が混在していると感じている。一つは、人口減少による将来の財政負担軽減のための手法として、駅前再開発事業を通して経済活性化を見込みたいという視点。駅前コンベンション機能に特化して希望を持ちたいのは、ソーシャルビジネスの視点が含まれていて、お金を生み出す循環が完成されているコンベンション機能を設置して欲しいと考える。もう一つの視点は、図書館や消防署の話にあるように、私たち市民の暮らしや文化の発展の課題を、この再編がどのように解決してくれるのか。この二つの視点に共通するコンセプトがどこにあるのかを見定めてから議論をしないと、どちらかにぶれてしまう気がする。箱物の話なのか、サービスの話なのかという議論が出てくるということは、検討委員会として、コンセプトの共有がなされていないことが根源にあるのかと思う。

○委員長 今のお話の中で、ソーシャルビジネスであったり、コンセプトであったり、具体的にどのようなものがよろしいと考えられるか。

○委員 コンセプトとしては、市民の暮らしを第一に考え、交流人口の拡大を目指すコンベンション機能であるならば、コンベンション施設の高層階には一人暮らし高齢者や、元気な一人暮らしの方々が住んでいて、その中には大学のサテライトも含まれており、商業施設も入っていて、コンパクトシティの視点でお金の流れや世代間交流が完成するようなもの。例えばコンセプトはコンパクトシティであるとはっきりと謳って進めた方がよいと感じる。

○委員 事務局の資料では、この場の議論や、これまでの施設の実績、適地として駅前と新庁舎西棟の2カ所を想定した中で、バランスを取りながらまとめたものだと思う。ただ、これがどのように仕上がっていくか具体的なイメージがしにくい。それは、イニシャルでどのくらいの負担があり、それをどのように調達し、どのようなスケジュールで進めていくのか。施設ができる大前提である場所、規模、スケジュールが、現実的にどうかという本来的な議論ができないからだと思う。一方で、この検討委員会の成り立ちが、そういったコンセプト的なものを決めていく場であると考えると、こういったまとめ方になるのだろうとも思う。ただ、そうすると、これから先、気を付けて検証すべき事が積み残された状態で進めていかなければならない。引き続き精緻な議論をすることが、現実的に必要である。

先ほども話が出たが、「現状の施設を前提とした場合に」という枕詞が付くのかなと思う。公共施設等総合管理計画の視点では複合化等になると思うが、コンベンション機能に既存施設機能をうまく取り込むことを目指すのだと思うので、施設整備や運営については現状の手法にこだわらない方がよい。施設の規模やランニングコスト等について、現状を上回る場合は民間活力が必要とあるが、これから先の財政負担縮減や、市民サービスの的確な提供を考えると、様々な事例があり、民間事業との連携や、民間事業であればどのようなことをするのかなど取り入れるべき。コンベンションは都市間競争の中で勝っていくという事業なので、市がそれに乗り出すということは、自分たちの強みや弱みを認識した上で、かつ、類似施設と足の引っ張り合いにならないように広域的な連携や役割分担とセットで考えなければならない。

スケジュール的にこの検討委員会でそこまで決めることはできないので、そういう論点があるとういことを踏まえつつ、現実的には目指す方向性としてこのようなまとめ方にならざるを得ないのかなと思う。進めるにあたっての注意点について、せっかくの機会なので、この委員会の場を活用して、再編の実現に向けた足がかりとして、今後の精緻な議論を進めてほしい。

○委員長 委員会の役割として、本日の資料のようなまとめに加えて、本日議論された、次の段階に進むときの考え方等の内容について、委員会としての提言にまとめること。今後、行政や民間事業者とで進めるときに、十分に考慮してもらおうということではどうか。事務局も機

能の再編や配置場所だけが結論ということではなくて、ここで議論した内容を宿題としたまとめ方をするように。

○委員 これからの都市の発展や人口減少を踏まえて福島市を考えた場合、コンベンション関係の部分で23ページに記載があるような状況も考えると、福島県文化センターは芸術文化的には間口が狭くて、様々なイベントが出来ない状況もある。そのため郡山で開催する場合も多くある。そのような状況を考えると、適切な収容人数の確保とともに、芸術文化としての機能も兼ねて整備し、なおかつ、福島市のこれからの強みは東北中央自動車道が完成した場合に、浜通りと米沢・山形を含めた数多くの方が福島市に訪れることではないかと思う。福島競馬場に山形からお越しになる方もいるし、観光部門でもそうだと思う。大きな施設を整備し有効に活用して、福島市に人を呼び込める体制づくりもしていかなないと、駅前を含め福島市が、閑古鳥が鳴くような都市になってしまうのではないか。コスト等のこともあるが、そのような将来を目指した都市づくりのことも公共施設の再編では考えて欲しいと思う。

○委員長 駅前再開発事業が非常にキーになっていて、例えば1万5千㎡を考えた場合、広そうに見えるけれども、新聞等に書かれている当初の再開発の内容として、ホテル、住居、オフィス、商業施設に加えてこの公共施設がフルスペックで入るとなると、コンパクトというより、雑多なものが詰め込まれたようなものになりかねない。大ホールと小ホールをフルスペックでつくると1万5千㎡ぐらいになってしまう。面積的には水戸市で整備しているものが近いと思う。また、狭くしても1万㎡ぐらいにはなってしまう。ホテルのケータリングなども含めて、どのように組み合わせるかを考え、魅力的なものにしていかなないと、商業施設が成り立たなくなる。駅前の再開発の場所に公共施設が入るならば、どういうものが良いのか。コンパクトと言っても隙間や余裕が必要である。次の段階で、行政が検証するためにも、皆さんからイメージや考えを出していただきたい。

○委員 既存のコンベンション施設で間に合っているものを、新しいコンベンション施設に持ってきても仕方がない。新しいコンベンション施設は、しっかりとターゲットを決めて、どのくらい集客できるかを議論する必要がある。他施設の会議が移っただけでは、意味が無いし、そちら側の収益が悪化してしまう。新しく整備するからには、他とは違うコンセプトを議論した上で、交通の利便性を含めて、お互いに潰し合わないよう、コンベンション機能や大きさ、収容人数などを決めていかなければならない。

○委員長 福島市は仙台市や郡山市などと競争関係は厳しいと思うが、経済界からみるとその点はどうか。

○委員 福島駅前の立地条件があれば、仙台や郡山の駅から離れた施設と比較すると、圧倒的に利便性は高く、可能性はあると思う。集客のできるコンベンション施設であれば、かなり競争力はあると考える。

○委員 市民からのご意見の中で、20代や30代の方々から新東西自由通路について要望が多いことがわかった。東日本大震災の際に、私はコラッセふくしま内で被災したが、地下自由通路はすぐに封鎖され、ゆらゆらと揺れる跨線橋を渡った記憶がある。コンベンション施設との関係性も含めて、新東西自由通路については中長期的な課題ではなく、もう少し検討されると、市民の意見も反映されてよいのではないかと感じた。

○委員長 相手のある話なので、どのような形で持っていくのかについて難しいところはあると思う。JRも民間企業だが、そのような点には熱心であると思われるので、色々な手法の検討が必要である。

○委員 駅東口の再開発事業は待たなしで進んでいることから、早期にどのような公共施設を入れるのかの意思表示をしないと、再開発事業のコンセプトも定まらないのではないかと心配してしまう。それと同時に新東西自由通路が整備されることで、東口と西口が広く結ばれるのではないかと感じる。

図書館については、市民からのご意見でも図書館のあり方に関する意見を踏まえて検討して欲しいという内容が多い。色々な考え方があり、駅前に入る利点もあると思うが、教育委員会や図書館として、あるべき姿や市民のニーズを踏まえたこのような施設をつくってほしいというもの示した上で、この後の配置の部分に関わっていただきたい。

○委員 学習センターの立場から、検討委員会のまとめにおける配置については申し分ないと思う。また、駅前の活性化に関しては、市民としては駐車場が問題になると感じている。駅前に素晴らしい施設があっても、有料であり、かつ立体駐車場や地下駐車場となると高齢の利用者は使いづらい。であれば郊外の無料駐車場を使い、買い物を済ますことになってしまう。その点を考慮して欲しい。

○委員 実務的な話になるかもしれないが、事務局の説明にもあったようにタイムスケジュールをどう組むかが大切になる。新東西自由通路のように、やりたいことはたくさんあるが、インフラ整備を伴ったり、相手との協議が必要になったり、非常に時間をかけなければ現実的にはできない。先送りするというわけではなく、引き続き協議をするという内容であると理解している。一方で、駅前再開発事業の今動いているものは、機を逸してしまうと後でどうにもできないので、行政として何を負担するのか、もう少し具体的なイメージを詰めなければならない。スケジュール感としては、優先順位として何をやって、引き続きどのような協議をしていくのか、それにあたっては何に注意すべきなのかをまとめることが、この検討委員会のできる範囲なのかなと思う。そういう意味では、拠点整備など二重丸を付けたところについては優先的に実施していく方針を通しておかないと、全てを同時発進した結果、どれも使われないことになってしまうと、とてももったいない気がする。

○委員 民間活力との連携について、具体的にどんな民間にどういうことをさせるのかという点が見えてこない、本当に可能なのかとってしまう。サービス内容は大事で、民間は収益性原理で動いている。そうでなければ株主に説明できない。民間がどういう形で入って、どういうメリットがでてくるのか。それらは、どのようなサービスを誰に対して、どのくらいのスパンで提供するのかが決まらなと見えてこない。そして民間はどこまでコミットしてくれるのかは大事であり、収益性原理で動いている民間が撤退したら次の担い手をどうするという話になり、立ち行かなくなったら悲劇である。これらのアプローチをしっかりと考えないと、絵に描いた餅になってしまうと思う。

○委員長 例えばで結構なので、事務局はどのように考えているか。

○事務局 一つは運営の部分に関して、実際にスタートした際に、どのようなコンベンション機能が、どのような規模で、どのようなスパンで見込まれるのかについての具体的なシミュレーションは必要である。まだ具体的なシミュレーションは行っていないが、コンベンションをどのように誘致していくか、市の取組としては、例えばコンベンションビューローを立ち上げている自治体もあるし、誘致するための補助制度を設けている自治体もある。全体として、立ち上げた後の誘致活動等は検討が必要であると考えている。

○委員 文化芸術が今までは、一般的に社会的費用としての位置付けで、コストや採算性という話になるのだが、最近文化芸術に対する意識が変わってきていると感じている。内閣府の「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第4次基本方針）」では、文化芸術が社会的必要性に基づく戦略的な投資であると捉えなおすとある。文化を高めることで、社会が変わるだろうし、経済的にも活性化に役割を果たしていく部分もあるのではないか。そういった意味で、コンベンション機能の中にどうやって文化を取り入れていくのか、私自身も考えてみたいと思う。

○委員長 今日のご意見からすると、事務局から示された内容について異論はないけれども、今後進めるにあたって、これらの点を十分検討するようということ、次回最終のものに取りまとめてもらいたい。他にご意見が無ければ、閉会したいと思うがよろしいか。図書館については、まとまった形のものがないということだが、その点はどうか。

○委員 駅前地区は広域的な交流機能ということだが、民間再開発事業に公共施設を差し込んでいった場合に、民間事業者側にどういったメリットが出てくるのか。公共施設を入れる以上は、その事業が持続可能で、継続していくことが前提で建てられなければならない。双方にとってメリットがあり、それが事業継続に対してポジティブな影響を与えるもので、民間にとっては収益機会を生み出すということだと思つので、公共施設の規模がどのくらいになるかは、再開発事業に大きな影響を及ぼすものである点が気がかりである。公共のいいところ取りは無理だと言つたが、そのバランスを考える必要がある。トータルで双方にメリットが出るような事業に仕立てていくためには、コンセプトはもち

ろん、規模や機能の部分も相乗効果という点を、コミュニケーションを図りながら、これは難しいことであるが、早期に議論する必要がある。

○委員 図書館も既存施設との競合関係がある。県立図書館もあるし、福島大学の図書館も新しくなりとても良くなった。そのような中で、市としての図書館がどうあるべきなのかは、しっかりと考える必要がある。福島市の知財を保存し、発信する場なのか。従来型の市民に学習や調べ物をさせる場所なのか。開架式のものをしっかりとつくとすれば、県立図書館もあるという話になるし、それが必要だという話ならば、そうなのかもしれない。その議論をこの検討委員会でやるのか、広く市民から意見を募るのか、しっかりと考えるべきだと思う。

○委員長 今の図書館機能が分離することもあり得るか。

○委員 あり得ると思う。どういう形が一番良いのかを考える必要がある。

○委員 あくまで参考だが、私が見た図書館で面白いと思ったのは、民間と連携した図書館としては武雄市が有名だが、隣の伊万里市の図書館は公設公営であり、そこはそこで素晴らしい図書館を運営している。近辺の住民からすると、両方選べる選択肢があることがとても良いのだろうと思う。福島市はこういう図書館でなくてはならないという画一的なものではなくて、駅前の図書館はこういうスタイルで、現在地周辺の図書館はこういうスタイルというように、福島市内の図書館でさえ形が変わってくるという前提で考えてはどうかと思う。市民の方がＴＰＯに応じて、色々な図書館を選ぶ選択肢を与える方が、もっと自由度が高まるのではないかと思う。

○委員 図書館として、あり方を考えるべきだというご意見については、これからの福島市を見据えた考え方で十分だと思う。従来のものが良いとは考えていないが、福島市の図書館のサービス拠点の配置図などを考えると、何が一番必要かと言えば中央館機能だと考えられる。県立図書館や大学図書館がある環境の中で、どのような色を出していくのかを考えて、それが、市民の暮らしを良くするサービスに繋がると思うので、それが市側から出てこないのであれば、その点を踏まえて建設すべきと思う。

○委員 昨年、図書館の委員として、他市の図書館を視察してきた。一階には市民が使えるホールがあり、吹き抜けのつくりで素晴らしい図書館であったが、市の活性化という視点からすると、目的に結びつくようには感じなかった。そのような事例についても参考にしたいと思う。

○委員長 それでは、事務局においては今日のご意見をまとめて、提言書に盛り込んでいただきたい。最後に副市長からどうぞ。

○委員 熱心なご協議に感謝する。正直に申し上げますと、この検討委員会がどのような展開になるか読めずに、ハラハラドキドキしながら毎回望んでいた。これだけの重要な議題が4回の検討委員会でまとまるかという心配もあったが、皆さんにこのような議論を積み重ねていただくと、青写真の次の段階まで議論していただいており、先に進んでいる感触を持ちながら、励ましを受けているように受け止めている。本日の議論を事務局においてしっかりとまとめるので、次回も先を読んだご意見をいただけるよう、よろしく願います。